時事新報は全國中紙面の最も廣き新聞紙なり　時事新報には毎號詳細なる商況物價の

時事新報

第三千百五十九號　永壽日
明治廿四年十月十四日（癸酉）
舊暦辛卯九月十二日
（西暦一千八百九十一年）

日出　午前五時四十七分
日入　午後五時廿二分
月出　午前三時十九分
月入　午後一時十八分
滿潮　午後二時四分

時事新報定價
時事新報は毎號八面乃至十二面にして詳細の商況物價報告あり其代價逓送料廣告料は左の如し
一箇月金五十錢〇三箇月前金一圓五十錢〇六箇月前金三圓〇一箇年前金六圓〇月曜日休刊
〇時事新報社より直接に郵送スルモノハ右定價ノ外二箇月十三錢ノ郵送料ヲ申受ク

時事新報廣告料（前金）

一行五號活字廿四字詰	一箇月	一箇月以上六箇月迄	七箇月以上
一行	十三錢	十一錢	十錢五厘

本社へ寄稿は付

東京府下を始め各府縣に通信社あるものありて是より各新聞社に報道を送送し各新聞社は之を受けて紙面を賑塞するより各社同一の記事を掲ぐるみと寡からず獨り時事新報社は社員並に通信員の多きを以て斯類の評に通信を依頼せずと雖も世間往々此事を知らずして通信社にさへ報道すれば本社にも其報道は達する事と信ずる方多きが如し爲めに行違ひを生じたる場合も寡からざれば本社に記事論說を寄稿せんとする方は直接に本社に向け發送あらんことを請ふ

時事新報

海外出稼人に關する政府の干渉

凡そ人の此世に在て第一に務ひべきみとは自分の身の始末なり人々各獨立獨行して生活の路を立て毫も他人の世話を受けず又他人の世話を燒かず專ら自己の利益幸福を謀りて怠らざるときは社會の秩序自から整ふて發達進歩の實を現はし世の中一般に福利を蒙ひるものなれば自から我身の利益に注意して人の爲めに犯されざることを勉ひるは即ち各人が社會に對して負擔する所の義務と謂て可なり左れば人間の幸福を增進せんことを圖る者は成丈け各人をして自助獨立の習慣を養成せしむるみと肝要なりと知る可し若しも之に反して徒に他愛仁慈の主義に溺れて漫に他人を扶助することのみに心を勞するが如きみとあらば其結果は唯に扶助を受くる者をして獨立自活の習慣を失はしむるのみならず救護の方法宜しきに叶はざるときは大に其働きの自由を束縛して圖らざる迷に非常の迷惑を及ぼすみとなしとせず是れ即ち干渉方略の大弊害にして經世家の深く注意すべき所なり

近來外國との交通追々頻繁なるに隨て我國人の海外出稼を企つる者尠からざる中にはよく先方の事情をも聞糺さずして內外周旋人等の云ふ所なるを輕々しく信仰し彼地に行きさへすれば濡手に粟の利益あるものと一筋に思込み仮外國に渡航して實地の狀況を見れば兼て聞きたる所とは地獄極樂の相違にして矣に始めて我が輕忽なりしを悔ゆるも雖も身は萬里の異鄕に在て最早如何ともす可からず進退維谷りて遂に如何なる辛苦勞働をも辭するの暇なく唯僅に飢渴を凌ぐを得れば以て幸なりとするに至る者なきにあらず是に於てか兼て海外に在る日本人は此有樣を見て頻りに其者等の不幸を憐み併せて之を周旋したる者の無情を憤り事の次第を詳細に日本に報し來れは又大に世人の心配を催ほし政府の筋に於ても之を聞て容易あらざるみとに鑑め兎に角何か取締の法を設けて彼の外出周旋人の惡策を止めんとて其議論少なからず云ふ我輩は固より同國人の海外に究迫するを聞て憫憐の情を起さゝるに非ず又之を斯の慘狀に陷らしむる者の不人情を惡まざるに非ずしされども政府が此事に干渉して出稼人を保護せんとするの一段に至りては斷して其不得策を言はざるを得ず今其次第を述へんに抑も是等の出稼人が海外に渡航して困難辛苦するは果して誰の罪あるやと尋ぬるに之を欺て私利を營むとする內外周旋人の不埒あるは勿論云ふまでもあらずとなから姦人の詐僞に乘せられて不幸に陷る出稼人に於ても迂濶の譏は免かる可からず何とおれば若しも彼等にもて少しく世事に通じ海外の地理等をも辨へ居るものあらば斯くも容易く人に欺かるゝみとなかる可ければあり畢竟するに海外出稼を企つる者が世才に乏しく輕卒にして欺き易きが故に之を欺く者も出來るみとなれば假令ひ彼等が政府の保護に依て今日欺騙を免かるゝみとありとするも明日は又何處に於て誰の爲めに欺かれ如何なる災害に遇ふや計るべからず幸にして出稼周旋人の毒手を逃るゝみとを得ても日本の內地に奸惡貪慾の輩は尚だ多し決して安心す可きに非ず左れば人に欺かれて海外に苦しむ者は之を保護すれども國內に離散する者は之を顧みずとの理由もあかる可ければ若しも政府が飽くまでも海外出稼人の鴻退に干渉して之を救ふと決心したる以上は之と同時に內地に於ても一法を設け田舍者が都會の見物又は買物あるに出掛けて種々無量の詭計に罹り錢を掠められ羞辱を蒙るが如きあらんには之れを豫防するが爲め一々其者共の私に立入りて救護するみそ本意ならんおれども斯の如きは固より政府の力の及ぶべき限りに非ず又その本來の義務にも非ず在昔封建鎖國の世に斯民を子の如くして制御したる時代はいざ知らず今日既に國を開て四通八達の世界に往來の路あるにも拘はらず自國民を自國の內に置て之を保護するみと我子を膝下に養ふが如くして只管その外出遠行を掛念するは抑も亦婦人の仁と云ふ可きのみ前にも云へる如く社會の秩序の進歩を謀るには之を組立る所の人民をして各其身を始末して他人の事に喙を容れず又他人の爲めに干渉せらるゝみとも亦獨立して世を送らしむるの外に妙案ある可らず斯の如くして始めて適者生存の大法も實地に行はれ愚にして弱なる者は活路を失ふて其跡を絶ち智にして强なる者は益々繁盛して社會の改良を致すみとを得る譯なるに今人力を以て天然に逆ひ强ひて原因結果の常則を枉げ社會に生存するを得せざる者を扶助して之に活路を與へんとするは即ち社會學の原理を度外視したるのもにして經世家の取らざる所なり蓋し小兒の火を弄ふを制止せんと欲せば先づ其爲す所に任せて一度火傷の苦痛を覺へしむるに如かず之をして絶て火に近つくみとを勿らしめて只管其危きを說くも徒に手數面倒を增のみにして遂に小兒をして火を恐れしむるの望ある可からず況や今日外出を企つる日本人は既に生長したる男子なれば己れの思ふ所に任せて如何なる處に行き如何なる事情に遭遇するも自から其責に當るべきのみ或は先方にて思はざる不幸に逢ふみとあらんか所謂自業自得にして他に怨む所ある可からず時としては其不幸も却て向後の警戒と爲り嗣を轉して福と爲すみともある可し畢竟するに多數の出稼人の中に或は見るに忍ひざる困苦に陷る者ある可きは勢、免かれ難きみとにして其不幸は誠に憐れむ可しと雖も之を憐ひの餘りに大切なる社會學の原則を忘れ漫に感情的の議論を喋々するが如きは我輩の感服せざる所なり

官報

○昨十二日發行官報第二百三十一號五行（元山の下括弧內、Gensan は Gensan 二十二行ブラジル中央部の下括弧內 Central は Central の孰も誤植なりと昨日の官報紙上に見ゆ

○司法省告示第九十五號
高松地方裁判所管內觀音寺區裁判所姫ノ江出張所明治二十四年十一月一日ヨリ開廳ス
明治二十四年十月十三日
司法大臣子爵田中不二麻呂

雜報

○造船所の不繁昌　近年歐洲の造船所は新造船の注文甚だ稀れにして何れも不繁昌を極ひるるよしあるが其原因は近年來南米諸國に戰亂絕え之智利の革命戰爭の如きは尤も著明なるものにして此邊の人情兎角穩やかならざれば外國貿易は日に不振に趣き近海を働き居たる船舶も其要あければ皆太西洋に集り來てジブラルタル海峽より地中海の沿岸を往復するより歐洲に於ける船舶俄かに增加して新造の必要あきが爲めあらんと云へり

笑話

種痘

想ひ起せば予生れて十歳の時、朝飯の席に於て予が敵ひ畏みし母御に向ひおっかさん私は昨夕何處に行て居たか當てゝ御覽と云ふに母は笑て多分喧嘩をしに行て居たのだらうと云ふ、いゝエ文吉さんの處に行て居たのッす夫れから當てゝ御覽、何を當てるのだ、文吉さんが如何して居たか當てゝ御覽、犬と遊んで居たんだろうと問答の末いゝエ夫れ處じやない文吉さんは病氣だったよ疱瘡を病で居たよとゝの答に如何はしけん家內は恰も大砲の破裂丸にても飛び込みたるが如く上を下へと大騒ぎを始めたり予が祖母公は大驚、目を丸くしてマア飛んでもないお前は文吉さんに逢ふたのかッと云ふに予は誇說に答へて逢ふた所じやない皆衆と一處に文吉さんを二階に抱へ上げてやッたよお醫者樣の來るまで疱瘡とは皆衆も知らなかッたからッと此一言に座中は一セカンドも立たざる中に空あきとありたり

予はふれまで家內の人達が斯くまでトッ騒りの稽古に上達せしとは露知らざりき長らく病みはうけて屢も立たずと聞久し老いたる叔母御さへも飛鳥の勢もて襖の外に躍り出で二階の梯子段を四足遣にて駈け上りたり騒きに平生感じの鈍き予もアッケン取られて茫然たり勿論、疱瘡と云ふ病とは予も之を見て取たり知れ樣は一通りの病氣とも思はの如く輕石の如くありしを見せしが家內の者が予を恐れて遠なきの甚しきもの哉と思案にしもあれ予が父は障子を細りしもあれ予が父は障子を細顔を出して盆太郎や早く三角と云ふにぞ予は何しに行くのと問ひければ種痘をして貰ひに行くとの答へに予は顔色蒼めて驚るゝみと齒を抜かるゝと同樣は行き度くおい予釣魚に行ちゃと云ひければ親父は顯に九のして貰はおいと病院に行かなと云たら早く行きナ家の中を疱瘡の毒が附着て居るかも知て溝の水抜の下を密て表へ出と父の言葉に是非もおく面白しけるが笑に來搦りし新參の逃がすものか私だよ盆太郎だよオヤ盆さんか何だッて溝の下予は何故だッて疱瘡に取つかれて行く所だよ放してれ與れと巡査は直に放たり人に捕たれたるは生來蓋し是れが始巡査は一丈はど飛びすさりて逃け出おいと打ち殺すぞと予は遠かに飛び出して走り三の學校友達に出合ひたりオイ盆さん何處に行くんさ學いゝエお醫者樣の處に行くの何しに行くんだ種痘をして貰ひに行くのサと友達は忽ち予を取り圍み跳助夫れはマア氣の毒あるよ予　痛いかヲ　跳助　痛い所の騒ぎかエ大變で居る飛八と云ふ新入の生徒ウン知て居らァ彼者がチー二週間ばかり前にいさうだ夫れにたッた今、宅の由たらゴチタのかも知れおとの話に予は種痘と云ふもの予と問ひければ　跳助　夫りやァマアこうだ君の野良七　大きな玄翁と鑿を持下太郎　剃刀で肉を切りみ跳助　ソウシテ其上を蕃椒水ウューッと云はせる大變苦予は坊る應答を聞きて薄氣味なら僕は行くせいと罵ふが野良七　僕が君だッたら兎て

時事新報廣告料（前金）
一行五號活字廿四字詰　一箇月　一箇月以上六箇月迄　七箇月以上
一行　十三錢　十一錢　十錢五厘
時事新報は毎號八面乃至十二面にして詳細の商況物價報告あり其代價逓送料廣告料は左の如し
一箇月金五十錢〇三箇月前金一圓五十錢〇六箇月前金三圓〇一箇年前金六圓〇月曜日休刊
〇時事新報社より直接に郵送スルモノハ右定價ノ外二箇月十三錢ノ郵送料ヲ申受ク